

# 野研びより

植物編 4号

野外生物生態調査研究部 植物班

2015年9月

[ハマツボ科ナンバンギセル属]

ナンバンギセル<南蛮煙管>

学名：*Aeginetia indica L.*

花期：8月～10月

分布：北海道～沖縄の日本全土

ナンバンギセルは、山野に生える草高 10 センチ前後の 1 年生植物です<sup>1)</sup>。葉緑体を持たず光合成を行わないため、イネ科植物に寄生して生活します。葉は退化しており、茎もごく短くほとんど地上に出ません。一見茎のように見える、地上に出ている長い部分は、実は花柄です。

そんなナンバンギセルの名前の由来は、長い柄の先につく花の形が南蛮渡来の煙管（きせる）に似ていることによります。また、古名は思草（おもいぐさ）といい、『万葉集』に収録されている歌の題材にも用いられています。淡紫色の横向きの花がうつむいて物思いにふけっているように見えることから、この名前がついたと考えられます。

同じナンバンギセル属で、オオナンバンギセル、ヒメナンバンギセルがあります。オオナンバンギセルは標高の高い山地に生え、ナンバンギセルと比べてやや大型です。花冠裂片の先が反り返り、縁に細かな鋸歯があることやがくの先が尖っていないことが特徴です<sup>1)</sup>。



© 2015 YAKEN

ナンバンギセル（2015年9月20日  
木花キャンパス農学部棟前で撮影）



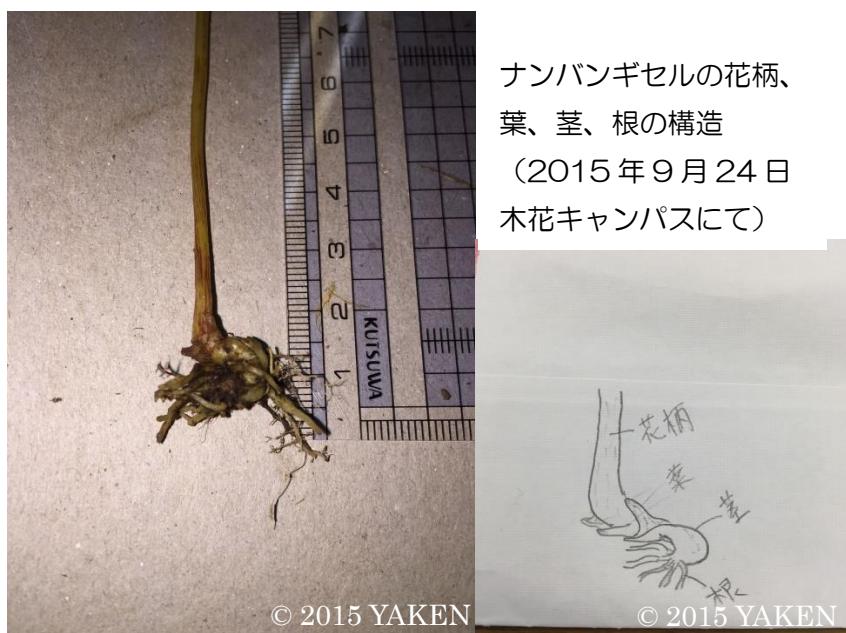
オオナンバンギセル<sup>2)</sup> とナンバンギセル<sup>2)</sup> の違い

一方ヒメナンバンギセルはナンバンギセルの変種とされており、やや小さく花の先端が青紫色をしています<sup>3)</sup>。スゲの仲間であるクロヒナスゲにのみ寄生するため、北関東だけに分布している貴重な種で、栃木県では絶滅危惧Ⅰ類（Aランク）に指定されています。

表 1 各ナンバンギセルの大きさの違い<sup>4)</sup>

	ヒメナンバンギセル	ナンバンギセル	オオナンバンギセル
高さ	10~20cm	15~25cm	20~30cm
愬の長さ	1.5~2cm	2~3cm	3~4cm
花冠	2cm	3~3.5cm	4~4.5cm

この3つのうち、大学内ではナンバンギセルを見ることができます。教育文化学部棟前や農学部棟ラウンジ前では特に群生していて見つけやすいので、是非探してみてください。



#### 引用文献

- 1) 林弥栄・平野隆久『山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花』 p 155, 山と渓谷社 (1989)
- 2) 「野山に自然に咲く花のページ」 <http://www.hanasanpo.org/>
- 3) 「レッドデータブックとちぎ」 <http://www.pref.tochigi.lg.jp/shizen/sonota/rdb/detail/05/0065.html>
- 4) 「花の詩山の詩～ナンバンギセルの不思議な生態」 <http://blog.goo.ne.jp/kurikoma7/e/26322dd9544fe815381cd469dc7bddf5>